

# 令和3年度第1回「教員等の出退勤時刻実態調査結果」【データ編】

## 1 調査方法等

### (1) 調査対象教職員

校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、実習助手、講師  
(※フルタイム勤務職員全員)

### (2) 調査期間

【1回目】令和3年 6月1日(火) から 6月30日(水) までの1か月間

【2回目】令和3年11月1日(月) から11月30日(火) までの1か月間

※今回の調査結果は1回目の調査となります。

### (3) 調査対象校

県内の公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校  
(千葉市立の学校及び市立高等学校を除く)

### (4) 調査の実施方法

#### ①市町村立学校

市町村立の小学校、中学校、義務教育学校及び市立特別支援学校においては、各市町村教育委員会が管下の教職員の実態をそれぞれの方法で把握し、当該月の平日及び土日における各出退勤時刻、在校等時間の平均、当該月の時間外在校等時間が45時間を超える者の人数を取りまとめ、各教育事務所を通して県教育委員会に報告する。

#### ②県立学校

県立の中学校、高等学校及び特別支援学校においては、ICカード式タイムレコーダ及び管理システムを活用して出退勤時刻を記録し、対象職員の当該月の平日及び土日における在校等時間、当該月の時間外在校等時間が45時間を超える者の人数を管理職が取りまとめて県教育委員会に報告する。

## 2 調査結果について

### (1) 全校種(市町村立学校、県立学校)

#### ①月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える教諭等の割合

職種(調査時期)	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校
教諭等(R3.6月)	59.5%	72.9%	76.2%	37.4%	14.3%

※「教諭等」:主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、実習助手及び講師

教諭等における全校種の平均

53.6%

#### ②月当たりの時間外在校等時間(校種別)

職種(調査時期)	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校
教諭等(R3.6月)	49時間49分	67時間6分	56時間56分	42時間42分	30時間26分

教諭等における全校種の平均

50時間39分

○月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える教諭等の割合について、全校種の平均が53.6%だった。特別支援学校においては14.3%だが、中学校や義務教育学校においては、70%を超えている。6月は行事が多く、学期のまとめの繁忙期である上、中学校では、部活動の大会前であることも影響していると考えられる。

○月当たりの時間外在校等時間について、教諭等における全校種の平均は50時間39分であり、県の目標である「45時間を超えないようにする」を5時間39分超えていた。高等学校、特別支援学校においては、県の目標を達成できたが、中学校においては、平均が67時間を超える実態であり、働き方改革を更に推進していく必要がある。

※令和2年度以降は在校等時間の調査であり、令和元年度までは在校時間の調査であるため、令和元年度までの調査結果は参考として掲載している。

※令和2年度6月調査は、新型コロナウイルス感染拡大予防に係る臨時休校明けの状況を考慮し、調査を実施しなかった。

在校等時間 <b>＝</b> 在校している時間 <b>+</b> ①及び② <b>－</b> ③及び④
① … 校外において職務として行う研修や児童生徒の引率等の職務に従事している時間 ② … 地方公共団体が定めるテレワークの時間 ③ … 勤務時間外における自己研鑽及び業務外の時間（教職員からの自己申告による） ④ … 休憩時間
在校時間 <b>＝</b> 学校に在校している時間 <b>+</b> 出張等校外で業務に当たっている時間 <b>－</b> 休憩時間

※R3.6月の県立学校の教諭等における1日当たりの時間外「在校時間」と「在校等時間」の差異は約2分となり、他の学校種においても、その差異はほぼ同じと想定し、参考として経年比較する。

(2) 市町村立学校（小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校）

①月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える者の割合

※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種（調査時期）	小学校	中学校	義務教育学校	特別支援学校
<b>校長（R3.6月）</b>	<b>39.1%</b>	<b>47.2%</b>	[33.3%]	[50.0%]
<b>副校長・教頭（R3.6月）</b>	<b>90.5%</b>	<b>94.3%</b>	[100%]	[100%]
<b>教諭等（R3.6月）</b>	<b>59.5%</b>	<b>73.1%</b>	<b>76.2%</b>	<b>32.3%</b>

教諭等における市町村立学校全体の平均 **64.2%**

②月当たりの時間外在校等時間

※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種（調査時期）	小学校	中学校	義務教育学校	特別支援学校
<b>校長（R3.6月）</b>	<b>42時間12分</b>	<b>45時間44分</b>	[34時間40分]	[59時間45分]
<b>副校長・教頭（R3.6月）</b>	<b>73時間54分</b>	<b>81時間38分</b>	[91時間2分]	[90時間26分]
<b>教諭等（R3.6月）</b>	<b>49時間49分</b>	<b>67時間12分</b>	<b>56時間56分</b>	<b>35時間23分</b>

教諭等における市町村立学校全体の平均 **55時間56分**

(参考) 月当たりの時間外在校等時間が80時間を超える者の割合

※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種（調査時期）	小学校	中学校	義務教育学校	特別支援学校
<b>校長（R3.6月）</b>	<b>4.4%</b>	<b>4.2%</b>	[0%]	[0%]
〃（R元.6月）	2.0%	4.4%	[0%]	[0%]
〃（H30.6月）	4.2%	5.9%	[0%]	[0%]
<b>副校長・教頭（R3.6月）</b>	<b>32.9%</b>	<b>50.9%</b>	[75.0%]	[80.0%]
〃（R元.6月）	38.9%	56.9%	[50.0%]	[0%]
〃（H30.6月）	44.4%	58.7%	[83.3%]	[0%]
<b>教諭等（R3.6月）</b>	<b>10.4%</b>	<b>34.5%</b>	<b>27.6%</b>	<b>0.4%</b>
〃（R元.6月）	12.1%	38.0%	33.3%	0%
〃（H30.6月）	13.2%	36.4%	35.4%	0%

※令和元年度までは「月当たりの時間外在校時間が80時間を超える者の割合」として算出

③平日における1日当たりの時間外在校等時間 ※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種（調査時期）	小学校	中学校	義務教育学校	特別支援学校
校長（R3.6月）	1時間52分	2時間1分	〔1時間42分〕	〔2時間33分〕
副校長・教頭（R3.6月）	3時間16分	3時間26分	〔4時間16分〕	〔4時間2分〕
教諭等（R3.6月）	2時間14分	2時間42分	2時間40分	1時間7分

※7時間45分を超えた在校等時間を算出

④平日の1日当たりの在校等時間 ※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種（調査時期）	小学校	中学校	義務教育学校	特別支援学校
校長（R3.6月）	9時間37分	9時間46分	〔9時間27分〕	〔10時間18分〕
〃（R元.6月）	10時間36分	10時間25分	〔10時間45分〕	〔10時間43分〕
〃（H30.6月）	10時間46分	10時間55分	〔10時間11分〕	〔9時間57分〕
副校長・教頭（R3.6月）	11時間1分	11時間11分	〔12時間1分〕	〔11時間47分〕
〃（R元.6月）	12時間18分	12時間24分	〔12時間4分〕	〔12時間17分〕
〃（H30.6月）	12時間27分	12時間38分	〔13時間3分〕	〔11時間26分〕
教諭等（R3.6月）	9時間59分	10時間27分	10時間25分	8時間52分
〃（R元.6月）	11時間13分	11時間36分	11時間31分	10時間35分
〃（H30.6月）	11時間26分	11時間54分	11時間33分	9時間57分

※令和元年度までは「平日1日当たりの在校時間」として算出

⑤土・日曜日の1日当たりの在校等時間（振替休日含む）

※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種（調査時期）	小学校	中学校	義務教育学校	特別支援学校
校長（R3.6月）	0時間12分	0時間25分	〔0時間00分〕	〔0時間25分〕
〃（R元.6月）	0時間31分	0時間35分	〔0時間29分〕	〔0時間0分〕
〃（H30.6月）	1時間16分	1時間20分	〔3時間30分〕	〔0時間0分〕
副校長・教頭（R3.6月）	0時間43分	1時間28分	〔2時間17分〕	〔0時間11分〕
〃（R元.6月）	1時間17分	1時間58分	〔1時間57分〕	〔0時間18分〕
〃（H30.6月）	2時間35分	3時間18分	〔5時間12分〕	〔0時間30分〕
教諭等（R3.6月）	0時間18分	1時間43分	3時間15分	0時間8分
〃（R元.6月）	0時間35分	2時間17分	0時間44分	0時間2分
〃（H30.6月）	1時間51分	4時間11分	5時間31分	0時間0分

※令和元年度までは「土・日曜日の1日当たりの在校時間」として算出

【市町村立学校について】

- 教諭等の「①月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える者の割合」は64.2%だった。また、「②月当たりの時間外在校等時間」について、教諭等の平均は、県の目標である45時間以内よりも10時間56分多い55時間56分だった。特に、中学校、義務教育学校において、教諭等の「①月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える者の割合」は70%を超え、「②月当たりの時間外在校等時間」について50時間を超えていた。
- 各校種とも、副校長、教頭の時間外在校等時間が他の職種よりも長く、「①月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える者の割合」は90%を超え、「②月当たりの時間外在校等時間」は中学校、義務教育学校、特別支援学校で80時間を超えていた。
- 教諭等の「③平日1日当たりの時間外在校等時間」は特別支援学校を除き2時間以上であった。また、副校長・教頭については全ての校種で3時間を超えていた。今年度は新型コロナウイルスの感染予防を図りながら、昨年度できなかった学校行事等を工夫して行う学校もあった。感染予防のための消毒や外部機関との連絡調整等といった業務を行いながら、例年並みの業務があったため、業務過多の状況であったと考えられる。
- 中学校においては全ての職種で「②月当たりの時間外在校等時間」が45時間を超えていた。部活動の各種大会があるため、大会に向けた日々の練習や土、日曜日の生徒の引率業務により時間外在校等時間が多くなったと考えられる。引き続き部活動ガイドライン及び活動方針の順守や年間を通した活動計画の点検を行い、部活動指導に従事する時間の縮減や負担軽減を図る必要がある。
- 過去の結果と比較すると、「月当たりの時間外在校等時間が80時間を超える者の割合」や平日及び土曜日、日曜日の「1日当たりの在校等時間」は、多くの校種、職種において改善傾向にある。しかし「1月当たりの時間外在校等時間」の平均は45時間を超えている状況であるため、ICTを効果的に活用し業務改善を図る等の取組を進める必要がある。

(3) 県立学校（中学校、高等学校、特別支援学校）

①月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える者の割合

※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種（調査時期）	中学校	高等学校	特別支援学校
校長（R3.6月）	—	14.9%	13.9%
副校長・教頭（R3.6月）	〔50.0%〕	62.6%	67.7%
教諭等（R3.6月）	38.2%	37.4%	13.0%

教諭等における県立学校全体の平均 29.6%

②月当たりの時間外在校等時間 ※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種（調査時期）	中学校	高等学校	特別支援学校
校長（R3.6月）	—	29時間54分	36時間59分
副校長・教頭（R3.6月）	〔59時間27分〕	62時間24分	62時間7分
教諭等（R3.6月）	44時間43分	42時間42分	30時間4分

教諭等における県立学校全体の平均 38時間40分

(参考1) 高等学校の全日制と通信制・定時制の月当たりの時間外在校等時間

職種 (調査時期)	高等学校 (全日制)	高等学校 (通信制・定時制)
校長 (R3.6月)	29時間53分	30時間48分
副校長・教頭 (R3.6月)	65時間 8分	41時間43分
教諭等 (R3.6月)	44時間14分	17時間37分

(参考2) 月当たりの時間外在校等時間を80時間超える者の割合

※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種 (調査時期)	中学校	高等学校	特別支援学校
校長 (R3.6月)	—	0%	0%
〃 (R元.6月)	—	0.8%	2.8%
〃 (H30.6月)	—	—	—
副校長・教頭 (R3.6月)	〔50.0%〕	15.8%	8.1%
〃 (R元.6月)	〔50.0%〕	13.2%	20.3%
〃 (H30.6月)	—	—	—
教諭等 (R3.6月)	8.8%	8.4%	0.1%
〃 (R元.6月)	23.5%	20.6%	0.1%
〃 (H30.6月)	29.4%	30.2%	1.5%

※令和元年度までは「月当たりの時間外の在校時間が80時間を超える者の割合」として算出

※中学校の校長は、中高一貫校につき該当者なし

※H30.6月の校長、副校長・教頭のデータなし

県立学校全体 (教諭等) の平均	5.7%
〔 参考: R元.6月の平均	14.0% 〕
H30.6月の平均	21.3% 〕

③平日における1日当たりの時間外在校等時間 ※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種 (調査時期)	中学校	高等学校	特別支援学校
校長 (R3.6月)	—	1時間17分	1時間40分
副校長・教頭 (R3.6月)	〔2時間42分〕	2時間45分	2時間48分
教諭等 (R3.6月)	1時間46分	1時間36分	1時間21分

④平日の1日当たりの在校等時間 ※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種 (調査時期)	中学校	高等学校	特別支援学校
校長 (R3.6月)	—	9時間 2分	9時間25分
副校長・教頭 (R3.6月)	〔10時間27分〕	10時間30分	10時間33分
教諭等 (R3.6月)	9時間31分	9時間21分	9時間 6分

※令和3年度は正規の勤務時間を7時間45分として算出

⑤土・日曜日の1日当たりの在校等時間（振替休日含む）

※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種（調査時期）	中学校	高等学校	特別支援学校
校長（R3.6月）	—	0時間12分	0時間00分
副校長・教頭（R3.6月）	〔0時間00分〕	0時間11分	0時間03分
教諭等（R3.6月）	0時間43分	0時間56分	0時間00分

⑥月当たりの時間外在校時間

※〔 〕は母数が少ないため参考値

職種（調査時期）	中学校	高等学校 （全日制）	高等学校 （通信制・定時制）	特別支援学校
校長（R3.6月）	—	31時間00分	30時間48分	37時間18分
〃（R元.6月）	—	20時間6分	16時間31分	32時間42分
〃（H30.6月）	—	—	—	—
副校長・教頭（R3.6月）	〔59時間27分〕	72時間43分	42時間43分	66時間38分
〃（R元.6月）	〔55時間42分〕	68時間22分	45時間29分	73時間28分
〃（H30.6月）	—	—	—	—
教諭等（R3.6月）	44時間43分	45時間50分	17時間52分	30時間10分
〃（R元.6月）	59時間33分	56時間49分	15時間23分	32時間4分
〃（H30.6月）	63時間50分	63時間34分	18時間55分	37時間1分

※令和3年度も「在校時間」として算出

※中学校の校長は、中高一貫校につき該当者なし

※H30.6月の校長、副校長・教頭のデータなし

【県立学校について】

- 教諭等の「①月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える者の割合」は、全ての校種で40%を下回り、教諭等の平均は29.6%であった。副校長・教頭はどの校種も50%を超える割合であった。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大予防等に係る業務があったことが要因の一つと考えられる。
- 教諭等の「②月当たりの時間外在校等時間」の平均は38時間40分であり、県の目標及び「学校職員の勤務時間等に関する規則」で規定された、月当たりの時間外在校等時間45時間以内を下回った。副校長・教頭については中学校で59時間27分、高等学校、特別支援学校では60時間を超えており、「45時間を超える者の割合」と同様に長時間勤務の実態が明らかとなった。「学校における働き方改革推進プラン」に掲げた取組項目を推進し、校長が副校長・教頭の業務量を確認しながら、引き続き業務改善や校務の平準化等、働き方改革を進める必要がある。
- 「(参考2)月当たりの時間外在校等時間が80時間を超える者の割合」は、過去の結果と比較した場合、多くの校種、職種において減少している。しかし、まだ80時間を超える者がいることから、業務改善や意識改革に係る取組を進めていく。
- 教諭等の「⑥月当たりの時間外在校時間」は高等学校（通信制・定時制）を除いて減少しており、業務改善が図られていると推測できる。
- 市町村立中学校と県立中学校を比較すると、県立中学校の時間外在校等時間が少なかった。管理職等に確認したところ、部活動に係る業務改善を進め、部活動ガイドラインの順守等積極的に働き方改革を行っている状況であった。